

花見堂地蔵と子供主体の地蔵供養塔

蔵 由美

花見堂地蔵については、二〇一三年の当会石仏勉強会で木原律子会員の「千葉県における花見堂地蔵」の報告をお聴きして以来、それまであまり気にも留めていなかった地蔵像塔も気を付けて見るようにしていたところ、先日、印西市内で「花見堂」の銘がある未報告の地蔵像塔と、八千代市内で「郷中子共二世安楽」の銘と幼名列記のある地蔵像塔に出会う機会がありました。

取り急ぎ、この二つの事例について、お知らせしたいと思います。

(一) 印西市内で見つけた花見堂地蔵

場所は印西市中根九〇二一三。鳥見神社と福聚院を通る道の真ん中位の丁字路路傍に、三体の地蔵像が並んで祀られています。

中央に丸彫りの総高九四センチの無銘の延命地蔵立像、その左右に「花見堂地蔵」銘のある舟形光背型の地蔵像塔が据えられており、現在も香華が手向けられています。



右側の塔は、総高八二センチ。合掌するかわいなお顔の地蔵像が浮き彫りされ、銘は「花見堂地蔵尊／寛延二己巳三月三日／同行十人」と刻まれています。



左側の塔は、総高八八センチ。宝珠と錫杖を持つ地蔵像が浮き彫りされ、銘は「奉供養花見堂地蔵尊／(梵字カ)／宝曆十庚辰天三月三日」です。



花見堂地蔵としてはやや大きめの石塔ですが、建立年銘の寛延二年(一七四八)と宝暦十年(一七六〇)は、『房総の石仏』二一号の木原さんの報告「千葉県内花見堂地蔵一覽」表によると、この地域で数多く建てられた時期に当たります。

(二) 八千代市内の子供主体の地蔵像塔

八千代市吉橋二六四五 高本農業協同館(国蔵院) 入口右側石仏群に、二体の地蔵像塔があります。『八千代の歴史 資料編』の石造文化財の一覧表では「仏像供養塔」に分類されている地蔵像塔で、六月二日、八千代市郷土歴史研究会の石造物調査グループで銘文の読み取りを行いました。

二体のうち、右側の地蔵像塔は、総高五四センチ、地蔵像は宝珠と錫杖を持ち、「奉造立地蔵菩薩尊像／郷中子共二世安樂伎／（梵字カ）／元文三年（一七三三）三月吉日」の銘があります。



「郷中子共二世安樂」の銘から、「花見堂地蔵」のような子供のための石仏ではないかと、風化が著しい台座部分の人名を拓本を採って読むことにしました。

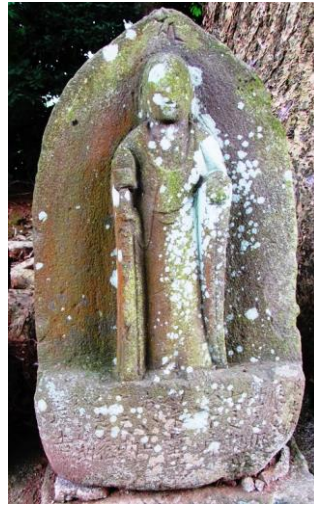
「己之助／作之助／辰之助／□□／□助／□助／丑之助／三（二）？十人」と読め、子供の名前らしいので、村の子供たち



主体の地蔵尊供養行事に関連する石仏と推測されました。

また「三月吉日」の銘から「花見堂地蔵」の可能性もあるかと思われまます。

その左隣にも同じような宝珠と錫杖を持つ小ぶりの延命地蔵像浮彫の石仏があり、建立年月日や造立目的の銘は無く、台座に人名があります。



「□太郎／辰之助／丑之助／長十郎／幻永童子／おいわ／六之助／七之助／かツ之助／長吉」と右側の塔と同じような名前が読み取れました。「○衛門」や「○兵衛」などはなく、漢数字や干支に「助」を付けただけの名は、おそらく幼名でしょう。

元文三年の子供主体の地蔵供養塔と同一名もあり、時期を前後する頃の建立で、同様の性格の石仏と思われました。

（三）これからも見つかる？花見堂地蔵

私が初めて「花見堂地蔵」を見つけたのは、二〇一一年の二月、場所は旧印旛村岩戸の山林内の宗像神社境内でした。



「花見堂／子共造立／古谷／享保十五戊午十月日」の銘が珍しく、HPにその写真をアップしたところ、木原さんが目を留められ、未報告の花見堂地蔵と知り、その後、木原さんの石仏勉強会での講演や、『房総の石仏』二一号、本誌第一二一号の報告に接して、興味を持って探そうになりました。

木原さんの研究によれば、花見堂地蔵の特徴は、①小型の地蔵像に「花見堂」などの銘がある、②造立日が三月三日や三月吉日が多い、③「童男童女」「子供中」などの子供が関わる銘がある、とのこと。

謎の多い「花見堂地蔵」ですが、もう一度身近な石仏を見直すことにより、これから、まだまだ見つかるかも・・・と予感しています。